backlog by nulab

製造業

工程表とBOMの「エクセル管理」を見直す

製造業のための情報集約プロセス

製造現場の判断を早める仕組みの作り方



エクセルでの進捗管理が管理職の本来業務を圧迫している

課題
01



会議が
資料探しから始まる

「この工程表は最新か」「設計変更は反映済みか」などの版確認で、本題である納期・品質・原価の判断の時間が減る。

課題
02



誰の対応待ちか見えず
判断が後ろ倒しに

設計変更やBOM更新など、どこで止まっているか不明なまま、管理職の判断だけが先送りになる。

課題
03



判断経緯が共有されず
管理職に確認が集中

部門をまたいだ確認が管理職に集中。情報が散らばっていて、管理職がハブ役からなかなか抜け出せない。

©2026 Nulab Inc. All Rights Reserved.

エクセル管理が経営・管理の判断を停滞させる原因

原因 01

管理単位が「ファイル」になっている

工程表やBOMの更新が変更案件と結びつかず、正しい版を判断しにくい。

原因 02

進捗基準と完了条件がそろっていない

担当・期限・状態の更新ルールが部門ごとに異なり、次に誰が動く段階かを一覧で判断できない。

原因 03

資料と相談・判断履歴が切り離されている

図面やBOMは共有フォルダ、相談はメールなどに残り、経緯を知る管理職への確認が集中する。

問題はエクセルそのものではなく、仕事の単位と情報の置き場所が分かれていること

©2026 Nulab Inc. All Rights Reserved.

ファイル整理ではなく「管理の仕方」を設計する

改善策 01

設計変更やトラブル対応など、発生した「タスク」ごとに情報をまとめる

「〇〇部品の設計変更」「不具合の原因調査」など、日々発生するタスク ごとに、担当・期限を明確にする。

各担当者がエクセルの工程表やBOMを個別に更新し、都度ファイルを再配布するといった、非効率な管理から抜け出す。

改善策 02

「未対応」「処理中」「完了」など、進捗の見方を共通化する

「たぶん終わっている」などのあいまいな表現をやめ、「未対応」「処理中」「完了」と全社共通の進捗基準を設ける。

都度聞かなくても全員がひと目で同じ進捗を把握できるようになる。

改善策 03

資料や「過去の相談履歴」をタスクに紐づける

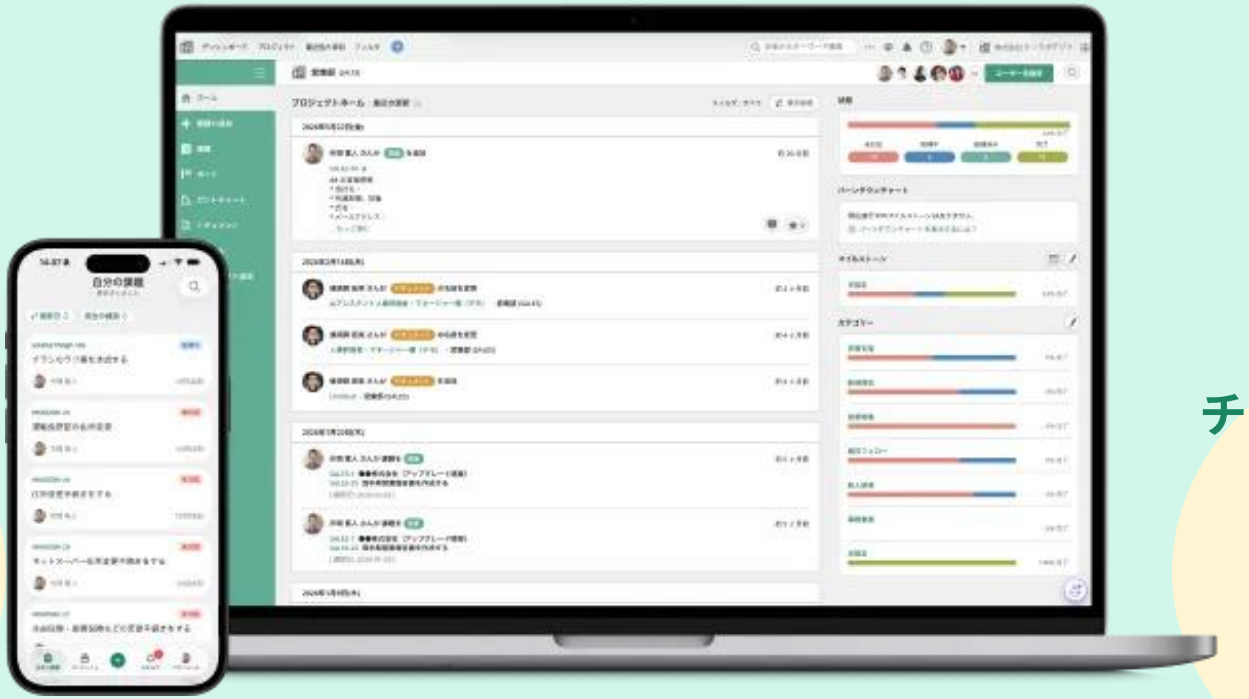
成果物だけでなく、「なぜその仕様（数字）になったのか」という判断の履歴を、個別のタスクに紐づけて管理する。

該当の案件を開くだけで図面・BOM・判断履歴など、必要な情報が見られる状態になる。

©2026 Nulab Inc. All Rights Reserved.

“探す・確認する”手間をなくす、「Backlog」とは

**Backlogは、製造現場のあらゆる「工程管理・資料共有・やり取り」を一元化できる、
プロジェクト・タスク管理ツールです。**



日々発生する業務を管理

- 工程変更の確認
- BOM更新の依頼
- 品質対応の進捗

チームで進めやすくなること

- 最新状況の可視化
- 関連資料の共有
- 会議・報告の整理

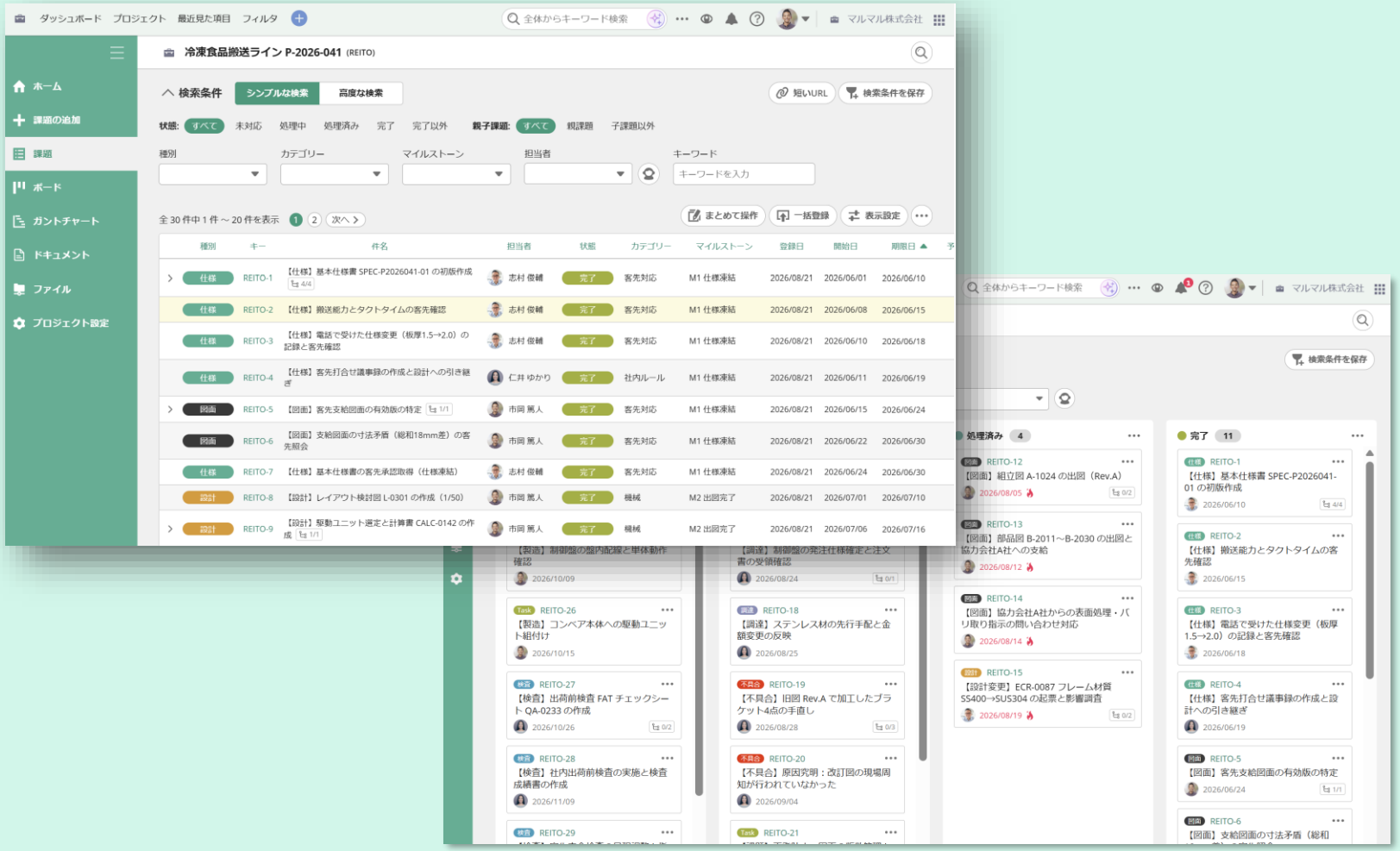
©2026 Nulab Inc. All Rights Reserved.

特長 ①

部門横断の進捗を、報告待ちにせず把握する

工程変更や品質対応を「課題（タスク）」として登録し、担当者・期限・状態などをBacklogに集約

部門ごとの個別報告に頼りすぎず、停滞している案件や対応責任者を把握。
優先順位の見直しや人員調整を、早い段階で判断しやすくなります。



©2026 Nulab Inc. All Rights Reserved.

特長 ②

判断の根拠を共有し、部門間の判断をそろえる

図面やBOMデータをタスクに添付し、確認・差し戻し・承認の経緯をコメントとして記録。

判断の背景を関係部門で共有できるため、管理職への再確認を減らし、担当者が変わっても同じ前提で対応しやすくなります。
「あの件、どう判断した？」をメールやチャットで探し回る必要がなくなります。



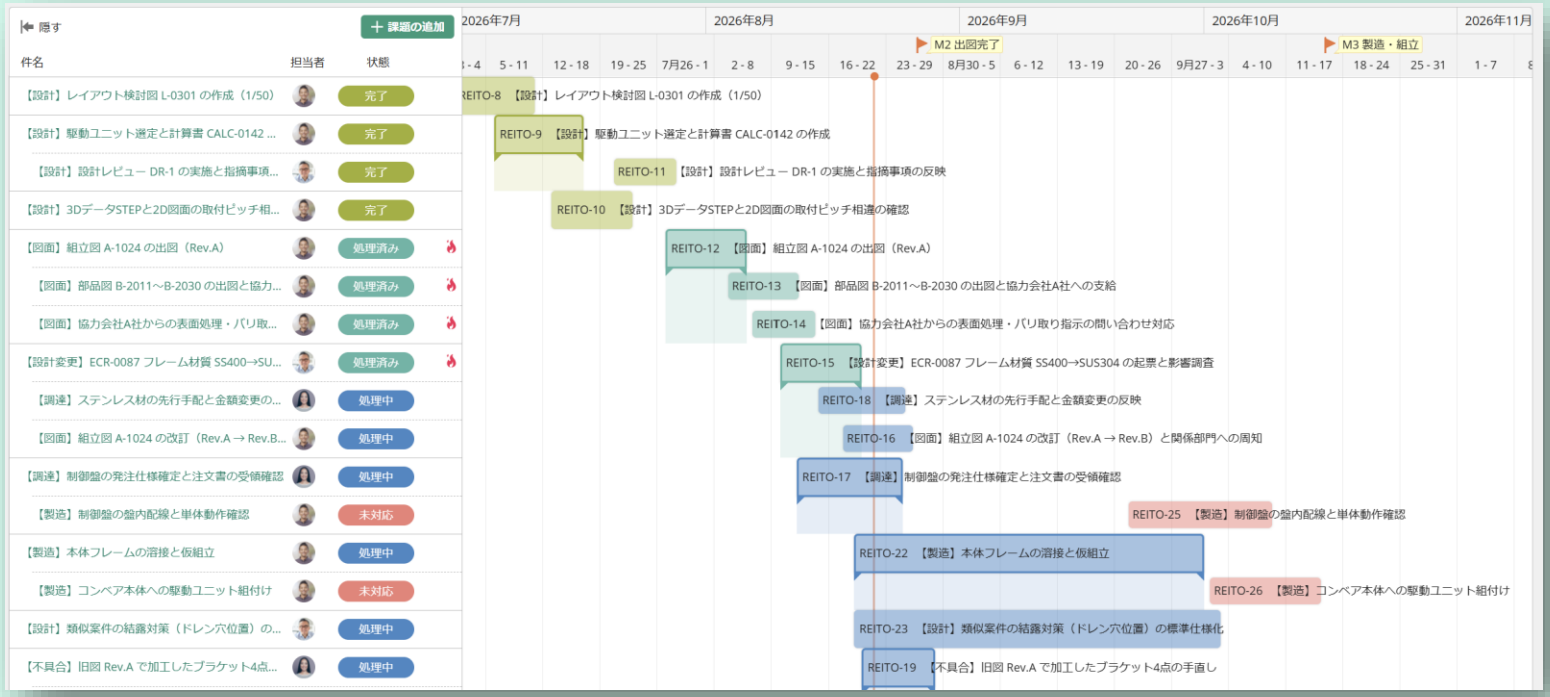
©2026 Nulab Inc. All Rights Reserved.

特長 ③

工程遅れの兆候を捉え、対策の判断を前倒しする

各タスクの期限をもとに、工程全体をガントチャートで表示。遅れている工程や後続タスクへの影響を俯瞰。

遅れの兆候を早期に捉えられるため、優先順位や支援体制を判断しやすくなります。



©2026 Nulab Inc. All Rights Reserved.

工程表・BOM・変更対応を、タスクと履歴でつなげる

01 進捗からスケジュール変更まで、リアルタイムに共有

各工程の作業をタスク化し、日々の進捗を一元管理

「最新の工程表ファイルはどれ？」と探す時間をゼロに。全部門が常に最新状況を把握できます。

02 設計・調達・製造へ。部門をまたぐ業務をスムーズに

BOM更新や手配指示をタスク化。「担当者」を切り替えてリレー形式で進行

「いま誰がボールを持っているか」を可視化。最新BOMの共有や次部門への手配が確実に行えます。

03 発生から対策まで、対応の経緯と進捗を「見える化」

不具合報告・原因調査・是正処置までの一連の流れを、1つのタスクで管理

「なぜその対策になったのか」という判断経緯が履歴として蓄積され、資産になります。

©2026 Nulab Inc. All Rights Reserved.

Backlog導入で現場はどう変わる？

Case 1 医療用品メーカー・RPA部門

製造・開発現場の記録を後から活用する

「以前も同じ不具合が出たが、あのときどう対応したか」
設計変更や品質対応の履歴がBacklogに蓄積されると、過去の判断経緯を後から参照可能になる。再発防止や標準化に活かせる記録として、日常業務の中で自然に積み上げられるようになった。

＞＞詳細はこちら

Case 2 電気機器メーカー・Webプロダクションチーム

エクセル管理から、担当者・期限・残課題を一元化

エクセルで課題管理表を運用していた製造・メーカー系企業では、タスクの担当者や締め切りが見えにくく、作業負荷の偏りや対応漏れが発生しやすかった。Backlogに移行後は、担当・期限・残課題・期限切れ課題が一画面で確認できるようになり、遅延への早期対応が可能になった。

＞＞詳細はこちら

Case 3 自動車メーカー・設計開発

蓄積した記録を次の判断に活用

Backlogに日々の業務記録を蓄積し、過去の類似業務や有識者を探す際に活用。記録を検索・整理できることで、振り返りやマニュアル化などへつなげやすくなった。

＞＞詳細はこちら

情報が一か所に集まることで管理職の確認負荷が下がり、判断に使える時間が増加

©2026 Nulab Inc. All Rights Reserved.

全社一斉ではなく、確認負荷の大きい業務から始める

STEP
01
対象業務を1つ選ぶ

会議のたびに確認が多い業務など、改善効果を確かめやすい領域を選ぶ。

STEP
02
課題の粒度と完了条件をそろえる

何を1件の課題にするか、担当者・期限・完了条件を決める。

STEP
03
既存の会議・確認に組み込む

工程会議や品質会議でBacklogを共通画面として確認し、別の報告資料を増やしすぎない。

STEP
04
2〜4週間で運用を振り返る

抜け漏れ、確認負荷、資料探しなどの変化を確認し、入力項目や運用範囲を調整する。

Point ≫ 既存のエクセルを一気に廃止せず、役割を分けながら段階的な移行がおすすめ

©2026 Nulab Inc. All Rights Reserved.

お気軽にお問い合わせください

無料トライアルで試す
まずは使ってみる



30日間無料で試す

オンラインセミナーで学ぶ
まずは話を聞きたい



オンラインセミナー

個別相談会で相談する
相談しながら決めたい



個別相談会

©2026 Nulab Inc. All Rights Reserved.

会社概要

社名	株式会社ヌーラボ
設立	2004 年3 月
事業内容	チームのコラボレーションを促進するサービスの開発・提供 ● プロジェクト・タスク管理ツール「Backlog」 ● オンラインホワイトボードツール「Cacoo」 ● 組織の情報セキュリティ・ガバナンスを強化するツール「Nulab Pass」 ● ワークフロー自動化ツール「Nulab Flowbase」
本社	福岡県福岡市中央区天神一丁目11番1号

©2026 Nulab Inc. All Rights Reserved.